

平成16年1月27日



平成15年12月 マンスリー レポート

集計企業数 60社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	39,215,650 万円	100.0%	100.5%(99.3%)	36,925,806 万円	96.8%(95.9%)
食 料 品	30,527,049 万円	77.8%(78.6%)	100.5%(100.5%)	28,860,446 万円	96.8%(96.9%)
農 産	3,989,249 万円	10.2%(10.4%)	93.0%(92.6%)	3,773,056 万円	89.5%(89.3%)
水 産	4,028,022 万円	10.2%(9.5%)	97.5%(95.9%)	3,775,777 万円	94.0%(92.3%)
畜 産	3,609,859 万円	9.2%(9.6%)	100.3%(99.9%)	3,428,036 万円	96.0%(96.0%)
惣 菜	2,906,357 万円	7.4%(7.2%)	101.7%(103.2%)	2,638,005 万円	97.3%(98.7%)
日配食品	6,948,616 万円	17.7%(19.0%)	101.9%(101.9%)	6,513,804 万円	98.1%(98.4%)
加工食品	9,044,946 万円	23.1%(23.0%)	104.3%(104.9%)	8,731,768 万円	100.8%(101.6%)
生活関連	3,734,485 万円	9.5%(9.1%)	98.4%(94.8%)	3,544,593 万円	95.5%(92.5%)
衣 料 品	2,522,803 万円	6.4%(6.4%)	99.9%(88.2%)	2,385,115 万円	97.7%(86.7%)
そ の 他	2,431,313 万円	6.2%(5.9%)	104.8%(105.3%)	2,135,652 万円	98.4%(99.4%)

数 値

全店総売上高	39,215,650 万円	店 舗 数	3,269 店舗
総売場面積	5,618,626.6 m ²	総従業員数	163,925 人

店舗平均月商	11,996.2 万円	平均客単価	2,133.1 円
月間m ² 売上(前月)	7.0 万円(5.8 万円)	平均店舗面積	1718.8 m ²
月間坪売上(前月)	23.1 万円(19.1 万円)	パート比率(前月)	74.3%(73.8%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 先月に続き、特に前半全国的に暖かい日が多く鍋物商材は依然として低調。また、気温の変化により、売れる商品が日ごとに変動する難しい状況が続いた
- ・ 野菜の相場安の影響もあり、一品単価が非常に落ちている。昨年の95%前後の客単価で推移しているところも多く、点数を売っても売上は昨年に届かない
- ・ 年末商戦も年々売上の山がなくなっており、買いためという傾向は薄れつつある
- ・ アメリカのBSE報道により、牛の売上は一時落ちるが、国産の拡充などにより、それほどの大きな影響は無かった

商品動向

農産

- ・ 野菜は依然として相場の安い状況は続くが、後半になり相場も上がり、気温も下がったこともあり売上は回復基調にある
- ・ 果物は、主力のみかんの品質不良と、いちごの高騰により不調

水産

- ・ 暖冬の影響により、タラ、カキなどの鍋商材は軒並み低調。しかし、鍋セットなどの簡便性のある商品は好調に推移している

畜産

- ・ BSEの影響により、一時牛肉が昨比約85~95%の売上となるが、国産牛の拡充などにより、心配されたほどの影響はなかった

惣菜

- ・ 単価の下落が続く中で、クリスマスなど年末においてのオードブル関係が好調に推移。3000円台の商品が動くなど単価も高くなっている

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、暖冬の影響によりアイス、乳製品が好調に推移。また、米の相場高により、パンが昨比を1割程度上回る伸び
- ・ 野菜の相場安の影響により、漬物が不調。また、昨年より堅調に推移していた納豆の売上も落ちている
- ・ 練製品、おでん材などの鍋物商材が軒並み不調。パンなどの売上ではカバーできず、全体的な売上も低調
- ・ 加工食品は、米の相場高、E D L Pの推進などにより全般的に好調な売上
- ・ 酒類は、販売店舗の増加もあり好調な売上。特に焼酎、チューハイは引き続き非常に好調。昨比120～150%で推移している

その他

- ～クリスマス商戦について
- ・ 予約ケーキの販促効果により、ケーキは全般的に好調に推移。特にホテルケーキなどアップグレード商品の動向が良かった。当日売りは年々縮小傾向にある
- ・ 酒類は、スパークリングワイン、チューハイが昨比105～120%と好調。酒類販売店の増加も、数字の上昇に大きく貢献している
- ・ チキンはフライドチキンなど小さめの商品が好調に推移。反面ローストチキンは苦戦した。チキン全体では概ね昨年並みとなった
- ・ B S Eの問題が24日に発生。売上に対する影響が心配されたが、ローストビーフの売上は低調も、それほどの大打撃にはならなかったところが多い。しかし牛肉の昨比で10%ほどダウンしたという声も聞かれる
- ・ 曜日回りの影響もあり、際物商品以外の売上は全般的に低調だった

～年末商戦について

(全体動向)

- ・ 29～31日の昨比は90%台が多いが、今年は展開が早かったこともあり、全体で考えるとほぼ前年並みに近い売上となった
- ・ 27日付近から開店時間を早めているところが多く、それにかからめて、早朝タイムサービスや、ポイント付加などの販促を打ち、効果をあげている
- ・ 元旦営業を行っているところが増えた影響からか、売上の山が年々無くなっている。単価や量目も減っている

(ギフト)

- ・ 産直などのこだわりギフトは好調に推移するも、法人需要の低下、単価の下落などが響き売上は昨年に届かなかったところが多い
- ・ 元旦営業が増えているせいか、手土産用の持ち帰りギフトが好調

(農産)

- ・ 年末になり、際物商品の相場が上昇し、物量の確保に苦労した。全般的には年々売上が落ちているという声も聞かれる

(水産)

- ・ 数の子は味付けが好調に推移。逆に塩数の子の動きは鈍かった
- ・ 全体的に少量目で多くの種類を買っている様子がうかがえる

(畜産)

- ・ 気温の影響もあり、すき焼き用の動きが鈍かった
- ・ 豚ブロックは年々縮小傾向にあるという声が聞かれる

(惣菜)

- ・ 予約おせちの売上は前年並みも単品の売れ行きが悪い
- ・ 天ぷら、年越しそばは前年並みの売れ行き

(日配・加工食品)

- ・ セット物のおせちが好調で、昨比110～115%で推移。逆に単品は苦戦した
- ・ お餅は概ね堅調に推移したが、鏡餅は年々小型化している
- ・ 全体的に、少量化、セット物への傾向が強くなっている。おせち自体が「飾り程度」という認識になっているのでは、という声もある